



ヤマシヤクヤク 山芍薬

復刊78号

妙たえの光ひかり

一般に知られるシヤクヤクは、中国から渡来して園芸用に栽培されてきたもの。かたやヤマシヤクヤクは、関東以西から九州の落葉広葉樹林の中に自生する。花は白色で、中国原産に比べると清楚である。春五月ころ木漏れ日の下に開花するが、半開きのまま開ききることなく二三日で散ってしまう。お目にかかれる方は、よほど幸運なのかもしれない。

昔は、角田山にも沢山自生していた。しかし今は絶滅したそう、愛好家が育てていた苗をいただき、境内の一角に植えた。秋になると姿を消してしまったので枯れたかと心配したが、春にはまた芽を出してくれた。

山野草らしくない大ぶりの花だが、いかにも華奢で可憐な姿は、環境省が「準絶滅危惧種」に指定しているのにもかかわらずいる気がする。

芍薬の蕾をゆする雨と風

前田普羅

行事案内

関東地区お盆参り

7月初旬

関東地区檀信徒宅に、お盆のお参りに伺います。

お盆墓参り、施餓鬼法要、新盆法要

新盆法要は①日程 ②日程
お選びいただけます。



■ 8月1日(水)

- ・午前6時～10時……墓前の読経受付
- ・10時30分……安穩廟法要
- ・11時……本堂で施餓鬼法要と
① 新盆法要
- ・12時……おとぎ
- ・午後1時……法話



■ 8月5日(日)

- ・10時30分……② 新盆法要
- ・11時30分……おとぎ

お盆棚経

8月初旬～16日

旧新潟市内、県内遠隔地は連絡の上で8月初旬から。近郊のお宅は従来の日程で伺います。予定を知りたい方、お留守になるお宅は8月1日以降にお電話ください。

岩屋七面様祭礼

8月19日(日)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼に赤飯のご供養があります。自由にお参りください。



万灯のあかり～妙光寺の送り盆～

8月25日(土)

(第23回フェスティバル安穩) 詳細は別紙パンフレットをご覧ください。

秋季彼岸会中日法要

9月22日(土・祝日)

- ・午前10時半……安穩廟法要
 - ・11時……本堂にて彼岸会中日法要
 - ・12時……おとぎ
 - ・午後1時……住職法話
- 予約不要ですので自由にお参りください。

月例信行会

8月5日、9月2日(毎月第1日曜日)

- ・午前7時……法要と軽い作務
 - ・8時……おかゆの朝食
- 予約不要で当日賽銭箱に会費千円を。



ボランティア

毎月15日※8月のみ24日に変更

- ・午前9時～11時30分 午後1時～3時
境内の清掃作業等。
- 8月24日は、送り盆「灯笼」組み立て作業。

水と土の芸術祭

屋根裏特設会場にて、佐々木愛さんの作品展示

- ・展示期間
2012年7月14日(土)～12月24日(月)
- ・休館日：火・水
- ・入場料：300円
- ・開場時間
7月～9月＝11:00～18:00
10月～12月＝12:00～16:30
(※ただし10月6・7・8日は11:00～18:00まで)



今号では、3人の総代さんにインタビューしました。各々お父様から受け継がれて、寺の仕事をしてきた方々です。「自分の好きなことをやりたいときに」ことが重視されているように見える世の中で、「運命として受け継いだ灯を、営々と掲げ続けて次代へ渡していく」その心持の尊さに感動しました。素晴らしい檀信徒さんたちと、よいご縁を結ばせていただきました。ありがとうございました。

700年大法要の申し込みは、8月10日〆切です。多くの方と、身延山でいっしょできることを、楽しみにしております。(新倉理恵子)

開創七百年大法要にご参加を

小川英爾



身延山大本堂

春から初夏にかけての境内は、花と新緑におおわれる一番美しい季節です。例年、庭先の「タラの芽」を摘んで、揚げたてを晩酌の肴にするのがこの時期一番の楽しみです。この春、ハッと思い出して木の下に行ったときには、すでに新芽がすっかり若葉になっていてとても食べられそうにありません。用務に追われてすっかり忘れていました。

開創七百年行事の準備が動き出しています。そのうえ、新潟市長が実行委員長をしている『水と土の芸術祭』実行委員会から、会場のひとつにさせて欲しいと依頼され、その対応に追われていました。

築300年になる客殿の木造部分、その屋根裏が不思議な大空間です。普段は倉庫ですが、ここを安穩会員でもある美術評論家にお見せしたことがあり、「ぜひここで作品展示を」と頼まれたのです。お寺の開放は妙光寺の方針でもあり、7月から5カ月の期間、協力することになりました。

また、23年目になる夏の行事「妙光寺の送り盆―フェスティバル安穩―」も、さらに内容盛りだくさんで準備中です。メインの一つに「得度式」があります。

20年前の『安穩廟』開設を機に数多くのマスコミから取材を受け、今もお付き合いの深い記者がたくさんおられます。なかでもY新聞の平山徹さんは、私の一言がきっかけで日蓮宗のお寺参りを始め、お参りしたお寺は1200ヶ寺を超えました。休日を利用してですから容易ではありません。1000ヶ寺を超えたあたりから「お坊さんになりたい」と思うようになったとのこと。

そこでこの夏、私の弟子として得度することになりました。家族もあり仕事は続けますが、将来はお寺で暮らしたい夢もあるようです。これもご縁でしょうか。

色々な方が集まる妙光寺ですが、その運営を担う檀徒役員がこのたび改選されました。3年任期で再任もありますが、75歳が定年です。長い方には40年余りもお勤めいただき、感謝の言葉もあります。交代の人選や手続きも終わり、新体制でスタート

しました。

こうして用務の多い毎日ですが、とにかく開創七百年の大法要に力を注いでいます。お寺は歴史の古いだけが価値ではありません。その活動が生き活きしてこそ、存在する意味があります。開放的にして多彩な行事を行うことで、様々な方が集まる妙光寺になりつつあります。でも全体の割合からいえばまだまだ少なく、カラ回りの感否めません。

700人参加という目標も決して無謀な人数ではないのですが、現時点で到達は厳しい状況です。参加の意思はあっても「まだ先のこと」とお考えの方が多くいます。部屋割り等細部の準備が大変で、8月10日の締め切りは延ばせません。人員不足で中止となれば早めの決断が必要です。ご家族で、お友達で、ぜひともご参加ください。七百年記念行事はゴールではなく、次の妙光寺八百年に向けたスタートなのです。やや力の入り過ぎた毎日を過ごす住職に、旅先の妻の父から「タラの芽」が送られました。食べ損ねたと諦めていましたが、おしくいただくことができました。



十数人が参加し、とても楽しかった。「お寺の鐘はいつでも見られるけど、作る過程を見られるのはこの時だけ。こんな機会は滅多にないと思って行きましたよ。」それから、お寺の中国団参やご前様のソウル大学講演に同行するなど、ずっとお寺を見守り続けている。

信子さんは山登りが趣味で、息子さんと富士山や谷川岳などに登る。昨年までは冬を除き、角田山に毎週一人で登っていたという。名実共に妙光寺を、角田浜を50数年見守ってきた人である。

「あの時鐘の鑄造を一緒に見に行った人たちが随分亡くなったのが寂しい。だけど嫁いだ頃は、若い人がほとんどいなかったのに、今は若い人がお参り来ている姿を見るのがうれしいわ。私はお寺が楽しいからお参りするの。今のご前様も大好きだし、楽しい。足が動く限りこれからもお寺に足を運びます。来年の身延山での七百年記念法要も楽しみ。なにせ、百年に一度のことですもの。」と目を輝かせる信子さん。

大病もせず、毎日をいつものように過ごせることが、何よりの功德だという。来年開創七百年を迎える妙光寺を、半世紀に渡り見守り続ける信子さん。妙光寺の節目に遣わされた、仏様のお遣いのような方である。 (取材・構成 永石光陽)

石田信子さんは、24歳の時に角田浜の石田誠太郎さんの元に嫁いだ。以来半世紀以上、妙光寺の檀徒としてお寺を支えながら信行を深めている。春秋のお彼岸、お盆等行事には必ずお参りを欠かさない。手を合わせ、お参りすることが当たり前だと言う。

そんな信子さんと仏様のご縁は深い。角田浜の隣村、越前浜に生まれ育つ。お父さんは浄土真宗の僧侶として、越前浜のお寺に勤めていた。そのお寺が、信子さんの学校帰りの遊び場だった。おかげで、お寺に行くことに何も抵抗がないという。浜松中学校1年生の時、当時教員でもあった妙光寺の先代のご前様が担任になった。とても優しく、大好きな先生だった。角田浜に嫁いでからは、檀徒として妙光寺に行くようになった。先代ご前様のファンで、事あるごとにお寺に足を運んだ。まだ幼い子供を連れて、角田浜の講中のお経会にも参加した。20代での参加は珍しく、村のおばあちゃんたちが、子どもと自分をとても可愛がってくれたという。

信子さんには、妙光寺の行事での思い出がたくさんある。中でもお寺の鐘の鑄造を見に滋賀まで行ったことは忘れられない。先代が遷化され今のご前様が入寺したとき、檀徒世話会がまず初めに取りかかったことが、鐘楼堂に戦争で供出したままになっていた鐘を吊すことだった。ようやく事業がまとまり、鐘の鑄造をみんなで見に行くことになった。夫の誠太郎さんと共に参加した滋賀への旅は、



鐘の鑄造を見に行った記念で購入し、現在も使われている鉦

信心

お寺とともに半世紀

新潟市西蒲区角田浜

石田信子さん(78歳)

妙光寺とともに歩み、妙光寺の明日を思う

妙光寺では檀信徒の皆さんが、二十数名の世話人会を中心にお寺を運営しています。世話人の中から互選で三名の総代を選出します。このたびの改選で、二人の総代さんが退任されます。留任のお一人も交え、総代さんたちにお話をお聞きしました。



Q 小林さんは先代住職の時に総代になられたんですね。

小林 はい。29歳の時、総代だった父が亡くなって、先代から「会議があるから後ろに座つてろ。」と言われたのが最初でした。その二年後に総代になって、内藤さんのお父さんや大滝さんのお祖父さんとお付き合いも始まり、勉強させてもらいながらの四十年でした。

最初のころは、檀家の重鎮だった五箇浜の遠藤家の旦那様も健在で、会議の後「こう決まりました。よろしいですか。」と旦那様に伺うような会議のあり方でした。先代は苦勞されたとと思います。

Q 先代が亡くなられた時、当代の住職はまだ大学生でしたね。

小林 実は、遠藤家の旦那様のお通夜に先代と一緒に帰った道で、先代から「次男の英爾（現住職のこと）が後を継いでくれそうだ。良かった。」と言われたんです。その後、昭和49年に先代が亡くなる時、私も町立病院に駆けつけました。病床に行くと、先代は私の手を握って何か言おうとするんです。でも言えないうつらな顔から、私が「ご前様、大丈夫。英爾さんのことは引き受けました。」と言いました。それから五分ほどして、先代住職は息を引き取られました。

その後、世話人会議で後継住職をどうするか話し合われました。英爾さんはまだ大学三年生だし、すでに大学の助教になっていたご長男を推す声もあり、まとまるまでにはいきさつがありました。最後はご縁の深い寺泊の法福寺のご住職が「ぜひ英爾さんを後継に」と推薦されて、世話人会もまとまったのです。大学卒業と同時に入寺式を盛大にやりました。

Q 先代のご苦勞を、もう少し聞かせてください。

小林 本当に先代は辛抱されました。とにかく時代が悪かった。寺の建物も傷みがひどくて、客殿を直したいとずっと考えておられましたが、果たせませんでした。ここは土地は広いけれど、収入が少なくて、どうやって安定した運営をしていくかが、難しい課題だったのです。

内藤 昭和40年頃までは、四月のご判様には近隣の信者も大勢集まったものです。それでも、寺の運営は厳しかったんです。

Q ユースホステルをしていたことも、ありましたね。私は実は、小学生の時、妙光寺のユースホステルに泊ったことがあるんです。

内藤 それなら、うちの母親の料理を食べる

ね。いつも台所を手伝ってましたよ。ユースホステルも何年かはよかったですけど、その後はうまくいかないし、ここでは保育園も経営できないし、とにかく寺の運営は大変でした。

Q 先代の七回忌の昭和56年に、客殿を直したんですね。

小林 少しずつ時代が良くなってきたんですよ。借金をして、直しました。でも大変でした。ずっとなんとかしたいと考えていましたね。

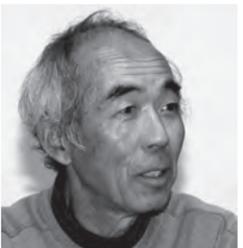
Q そこで、平成元年に安穩廟ができるのですが、最初に計画を聞いた時は、いかがでしたか。

小林 実は私は、ずっと以前に先代住職に「あの広い土地を墓地公園にしたらどうか」と話したことがあります。これだけの土地があれば立派なものができるし、運営も安定する。私の一つの夢でした。でも先代は「そんなことをすると、近くの日蓮宗の檀家を奪うことになるから、妙光寺は嫌われてしまう」とおっしゃいました。当時は全国から墓を求めて来られるなんて、考えられなかったわけです。だから初めて安穩廟の話聞いた時は、夢が実現する！とうれしかったです。

内藤 私の親父も、とにかく寺として収入を得るために何か事業をしなくては、と安穩廟には一生懸命でした。でも、他にないような新しい形だから二期目の工事のときは、冒険でしたね。
小林 ご前様が「心配だから少しずつ作る」



内藤昭一さん(76歳)
ご両親は妙光寺で出会い結婚。昭一さんも、若いころから両親とおともにお寺を支えてきた。お父様の亡き後、平成8年から世話人となり、平成16年から総代に。定年のため退任される。



大滝 剛さん(61歳)
平成10年世話人となると同時に、総代に。小林さん、内藤さんの退任に伴い、お二人の思いを引き継いでいくことになる。

と言うので、「きちんと借金して投資して、初めからある程度の規模のものを作らないと、ちゃんとした事業にならない」と言ったんです。でも客殿の借金の返済が終わったばかりだし、二〜三年やつて駄目なら、残りは檀家皆で返済するしかない、と思っていました。それがどんどん申し込みがあつて、こんなことになるなんて夢にも思わなかった。

大滝 あの時は、皆心配して大騒ぎで、マスコミは来るし、ある種のパニック状態でした。私は若かったから大して感じてなかったけど、父は大変そうでしたね。

小林 時代が変わっていったんです。一九八九年ですから、バブルも終わりが見えてきて、モノから心へ皆の思いが移っていく頃でした。

内藤 そのおかげで平成13年には本堂の建替えもできました。その前に古い本堂の屋根が風でめくれた時は、ブルーシートを張って、みすぼらしい寺になったと思つて辛かったです。だから、本堂の竣工式は、うれしかったですね。

大滝 私は本堂の建替えが決まった時に、大事業になるからと言われて、体調を崩した父の代わりに総代になりました。小さい頃から祖父・父と総代を務めるのを見てきたので、自分に務まるかと最初は不安でいっぱいでした。

Q では、これからの妙光寺について、思うところをお聞かせください。
小林 「原点復帰」が大切です。若者が新宗

教に流れる時代も終わり、従来の仏教が見直されている時代です。妙光寺もその中で、自らの原点を見つめなおすときです。このお寺には、日蓮聖人の足蹟が数々あります。これらに象徴される教えを若い檀信徒に伝えていくことが、今大切だと思っています。

内藤 若い人にどうやって来てもらうか、ですね。二、三年前、寺に来たバスの運転手に「こちら辺には珍しいくらい、立派ないいお寺だ」と言われました。確かに立派になって、本当にうれしい。反面、良くなりすぎて、やることなくならぬ気がします。

大滝 歴史のあるお寺の七百年に出会えるなんて、いい巡り合わせだと感じています。七百年の身延山参拝は、盛大に成功させたいね。

内藤 うちは、十人以上で身延山に参加するよ。

大滝 檀信徒だけでなく、安穩の会員さんたちも含めて、仲間の人たちにたくさん参加してほしいと思つてます。

内藤 あと、山側の墓地の区画整理を頑張つてやつてくれね。そこまでやると、ご前様も大したもんだと言われるよ。
わかりました。ご住職に伝えておきます。どうもありがとうございました。
(聞いた人 編集部・新倉理恵子)

春の一日研修

4月7日 初めての方7名を含め、12名が参加されました。



閉会式は覚えたての団扇太鼓で!



お昼は手作りの精進料理をみんなでいただきます。



数珠の持ち方から、お経の練習まで。

お盆参り



今年も1千張りの提灯が里帰りの精霊をお迎えます。



お盆参り(8月1日)には、塔婆を立て、新盆提灯をさげの施餓鬼法要があります。

参道整備工事



常緑樹で緑の絶えない景観にします。これまで寄付いただいた分の植栽をしました。引き続きご協力をお願いします。

水と土の芸術祭



「水と土の芸術祭」へ向け、シュガーペインティング作家、佐々木愛さん(大阪在住)が、妙光寺で3m×7mの大作を1ヶ月以上かけて制作中。作品は7月14日から12月24日まで、妙光寺屋根裏特設会場で展示されます。

《水と土の芸術祭》
水や土に支えられてきた土地の文化をアートで国内外に発信することを目的とした芸術祭。www.mizu-tsuchi.jp/ 問い合わせ：025-226-2628



- ① 式衆が散華を撒きながら参道をお練り。
- ② 題目堂からご判が御輿で運ばれます。
- ③ お稚児さんは「ご判さま」の華!とにかく可愛いです。
- ④ 経王寺住職、互井観章師の法話はユーモアいっぱいの講談風!
- ⑤ お稚児さんと雅楽の音楽法要は華やかで荘厳でした。

ご判さま

4月29日 例年通り快晴でした。



100日の荒行を終えた僧侶による「水行」の儀。



祈願の受付など、役員さんは終始大忙し。



たくさんの方が法要に参加しました。

寺のうらぐさ

春
夏へ

お盆参り 8月1日(水)

墓前のお経

妙光寺では8月1日がお盆のお墓参りです。朝6時から10時頃まで、墓前でのお経をお受けします。安穩廟も同様です。水屋周辺に偈侶がおられますので直接声をかけてください。

法要

10時30分から安穩廟法要、11時から本堂で施餓鬼法要と新盆法要です。ぜひお参りください。

施餓鬼塔婆の供養

亡き人への供養の想いを表す卒塔婆の申し込みを受け付けます。戒名またはお名前を塔婆に書いて本堂に立て、



万灯のあかり 妙光寺の送り盆 8月25日

住職が施餓鬼法要で一本ごとに読み上げます。卒塔婆のお申込みは同封のハガキか、世話人に直接お願いします。

千提灯

色美しい供養の提灯を1千張、8月1日から送り盆の25日まで、院庭に吊します。

名称が「万灯のあかり」妙光寺の送り盆」に変わり3年目。「フエスティバル安穩」としては23回目の開催となります。

檀信徒の皆さんをはじめ、広く地域の方々からも参加していただきたいと、送り盆法要を中心に、今年も盛りだくさんの企画です。賑やかな中にも、今

を生きる人々と亡き人々がつながる「送り盆」。午前11時の開門から、灯籠にかりが入る幻想的な夜の妙光寺まで、一日を通してどうぞお出かけください。

講座 「エンディングノートを書こう！」

末期がんとともに生きている人が、私は「死ぬのはこわくない」と言う。「なぜ?」と聞くと、「すべて決めて準備しているから」と…。安心して最期までの輝いて生きるため、エンディングノートを書いてみませんか? 万物が燃えさかる夏に、自分の人生を振り返り、愛しい人、お世話になった人々への感謝の気持ちを綴り、お葬式や相続のことなど、考えてみましょう。

1時間の講座の後、実際に書いてみたり、様々な関連質問にお答えしたりします。きっと、あなたにとって「素敵な夏の日」になることでしょう!

◆1回目 13:00 ~ ◆2回目 15:30 ~

◆会場: 京住院
◆講師: 井上治代さん

(NPO 法人エンディングセンター理事長・東洋大学教授)

《講座内容》

1. エンディングノートとは? 書く意味は?
2. 人生をふり返ってみると
・愛しい人へメッセージ
・生家の間取り図
・残された人へ死後のプレゼント
3. もしものことがあったらページ
・私のお葬式、お墓はこんなふうに
・余命告知や延命治療の有無
・遺言について



年会費のご案内

郵送の方には振込用紙で、世話人が伺う地区の方には直かに、年会費のご案内があります。期日までの納入をお願いいたします。



紙上法話

小川英爾



強く生き抜くとき、この子はあなたの心の中に生き返るでしょう」と諭されたのです。よく知れたお釈迦様のお話です。

表題は、父親を亡くした子供たちに説かれたお経の一説で、「常に悲しみの心に満たされ、繰り返し嘆き悲しむうちに、必ず心は悟りに目覚めることができる」という意味です。

私たちにとって大切な人との死別ほど悲しく辛いことはありません。その悲しみは生涯忘れられないほど深いでしょう。一方で、常に悲しみの中にあつてこそ、他人の悲しみや苦しみを深く理解できるのです。これは仏教が説く、より深く大きい悲しみや慈悲の心に近づく道です。仏教では、自身の悲しみがより広く深くなることで、その悲しみから救われると説かれています。

若くしてご主人に先立たれ、生まれつき障がいのある子を抱えたお母さんから「最初は本当に辛かったです。でもこの子の純粋な心に教えられることばかりで、この大変さは神仏に戴いた贈り物だと真から思うようになりました」と、気負いのない言葉を聞いたことがあります。悲しみに救われるとはこのことかと、実感させられた思いでした。

今年もお盆がきます。故人を偲びつつ、亡き人も共に今を生きている、そんな思いで過ごされることを願います。

葬儀はみな悲しいものですが、事故でも病気でも、幼い子の葬儀は悲しみも一層深く、正直なところ住職としてもつらいものです。その後、墓地や本堂にお参りする姿を見かけても、一様に寂しさが漂っています。数年前にお嬢さんを事故で亡くした友人も、今も心の整理はついていないし、決して忘れることはできないと話していました。

それでも多くの場合、葬儀の後、四十九日、一周忌、やがて三回忌と過ぎる中で、少しずつですが表情が和らいでくる感じがします。しかも、以前に比べて柔和な顔つきに見えてくることも多いのです。悲しみが消えたわけではありません。その悲しみと共に歩んでいるということなのでしょう。

お釈迦様がある村に入られたとき、ひとりの女性に泣きつかれました。「あなた様はどんな悩みにも応えてくださると聞きました。私は夫を亡くし、この子を頼りに生きてきました。それなのに、この子まで急死したのです。ぜひ生き返らせてください。」6、7才に見える男の子の遺体を抱えた女性をご覧になったお釈迦様は気の毒に思われ、生き返る薬を調合するから、ケシの種をもらってくるようにおっしゃいました。ただし、不幸のあった家の種ではだめだと付け加えられたのです。

女性は日暮れまで家々を訪ね歩きましたが、ついにケシの種を貰うことができずに戻ってきました。「お釈迦様、世界中で自分が一番不幸な女だと思っていました。でも他の人たちが皆、不幸を抱えて生きていることに気が付きました。」そのとき、お釈迦様は女性の肩にやさしく手を置いて「とても良いことに気が付いた。この不幸を受け入れて力

「常に悲しみを抱いて心づいに悟りにいたる」法華経・如来寿量品第十六

まだ冬のように風の冷たい3月の早朝、一人の男性が寺に駆け込んできました。「私はSさんの近所に別荘を持つAです。今Sさんのお宅の前を通り、いつものように『来たよ!』の合図でクラクションを鳴らしてフト見たら、玄関先でSさんが倒れて、冷たくなっていました。『俺にもしものことがあつたら妙光寺さんに知らせてくれ』と、いつも聞いていたので来ました」と言うのです。

救急車を呼び親族にも知らせて、私も現場に向かいました。間もなく到着の救急隊が警察に通報し、その場で検死の結果外傷はなく、死後数時間が経過しているとのことでした。

80歳のSさんは独身で、長らく県外で働いていました。高齢になって故郷新潟に戻ったものの、親族に負担をかけたくないと安穩廟を契約し

て妙光寺の近くで借家をしていたのです。以前から「もしものときは」との話だけがありました。しかし生前戒名は受けたものの、それ以外は何も進展していない、そんな矢先の出来事でした。

駆け付けた親族の方々も困惑しています。身元もすぐにわかり、前日までの状況も親交のあったAさんが証言したので、事件性はないと大げさなことにはならず済みました。

親族は妙光寺での葬儀を希望し、葬儀社との打合せ、家主さんと自治会長さんにご挨拶、自宅に戻ってそれぞれ仕事の予定の調整と大慌てです。

実際のところはすんなりいったわけではありません。親族「本人から葬儀を含めて一切を妙光寺さんにお願ひしてあると聞いています」。私「その意向は聞いています。

しかし手続きしないと何もできないから、と再三お伝えしていました。」そんな押し問答があつたのです。

お通夜と葬儀には親族数名の他に、自治会長から知らせを聞いた地区の民生委員さん二人も参列されました。そのお二人が涙をふきながら顔見知りの私に、「どうして突然に? 敬老会に出席されて歌つたり、他の方と親しく話されたり、良い方だったのに驚きました」と言います。そんな会話もあつて、親族は落ち着いた雰囲気変わっていききました。

後日の四十九日忌法要と埋葬も終え、叔父にあたる方が「一時は慌ててしまい、失礼なことを申し上げました。こまですませることができて感謝しています。実は借家の後始末、廃車の手続、預金通帳の解約等々、相続人が複数いて今も面倒しています。故人となつたけど、

隣人とのいい関係を築くことの大切さと同時に、親族への配慮としての遺言書の必要性をあらためて思いました。ただその人の性格によっては、なかなか難しい場合もあるというこも。



もう少し最後のところをしつかりして欲しかった」と、話していかれませんでした。

一方で発見してくれたAさんの言葉が心に残っています。「なぜあんな寒いドアの外で倒れていたのか。もしかったら、毎朝通る俺に見つけて欲しいという気持ちだったのかなと思っんですよ。いつも一緒にお茶を飲んだり、ドライブに行ったりしてましたからね。」

隣人とのいい関係を築くことの大切さと同時に、親族への配慮としての遺言書の必要性をあらためて思いました。ただその人の性格によっては、なかなか難しい場合もあるというこも。

寺庭から



「お集まりくださいませ」小川なぎさ

夏の暑さを予感させるように、木々の緑が日に日に色濃くなってきました。夏の強烈な日ざしから私たちを守るように、変わらずにそこにある境内の大木。自然の循環の尊さを思います。

朝のNHKニュースで「お寺に人を! 僧職男子の挑戦」という特集をやっていました。寺に関心を持ち、人々に集まってもらおうという取り組みが紹介されました。ちまたでは若い僧侶が注目されているのだそうで、なんでも若い女性を中心に『美坊主図鑑』なる写真集も売れているのだそうです。うふふ・美・ほうず?

またその少し前には、新聞の電話会社の広告に、ある寺の家族が紹介されていました。三人姉妹とその母親のお話です。「最もプライベートな空間が公の場所というのは、どんな感覚なのだろう」という文で始まり、母娘は携帯で家族を楽しんでいるというもの。まあ、宣伝ですけどね。

葬儀や法事の簡素化が進む中で、僧侶たちの危機感が社会を動かし始めたのか? あるいは寺離れというのは間違いで、寺や仏教に人々が期待し始めたと考えるべきなのか? これらのニュースの意図は何なのか? 寺という場所にいる私には、よくわかりません。



どちらにしても寺に関心が集まるのはとても良いことのように思えます。こんな報道や広告が多くの若者の関心を集めて、寺とは何か…と考える機会になったらいいなと思っています。あらためて、人の集まることこそ、寺にとっては一番大切なこと! と感じた5月でした。

新年度からは、ずっと担当してきた経理の仕事も娘に預け、隠居生活とまではいきませんが、今後のことを考えながら、いろいろと動いています。幸い今はチームワークでうまく運営できていますから、私が少し力をぬいても大丈夫でしょう。

こんな風に目標を見つけて、おかげさまで元気にやっております。奥にすることが多いのでなかなかお会いできませんが、夏に向かって皆さんもお気をつけてお過ごし下さい。

暑い夏は出かけるのも大変ですが、寺はまわりの山や木のおかげで少しは涼しいかもしれません。

『水と土の芸術祭』の作品展示が決まったこともあり、週末のみですが院庭に休憩処を作りました。セルフサービスで、コーヒーとお茶があります。お盆の夜も開けておこうと思いますので、お墓参りのあとは本堂脇のこの`院庭カフェ、をご利用下さい。